

## 令和6年度第2回 名張市地域公共交通会議 議事概要

日 時：令和6年12月23日（月）  
午後2時00分～16時05分  
場 所：名張市役所 1階 大会議室

出席者：（敬称略）

### （1）委員

堀越 光春 （市民公募）  
澤田 恭子 （市民公募）  
古谷 久人 （地域づくり代表者会議副会長）  
中平 恭之 （近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科教授）  
樋口 恵一 （大同大学工学部建築学科准教授）  
姫子松 伸浩 （近畿日本鉄道株式会社名張駅長）  
平岡 祐一 （三重交通株式会社伊賀営業所所長）  
山根 秀生 （名張市身体障害者互助会事務局長）  
北森 匠 （【代理出席】株式会社キタモリ）  
橋本 智幸 （株式会社メイハン取締役部長）  
前田 敦志 （一般社団法人三重県タクシー協会伊賀支部支部長）  
豊永 育子 （公益社団法人三重県バス協会）  
尾上 義文 （三重交通労働組合伊賀支部支部長）  
田畑 賢一 （名張警察署交通課交通課長）  
小島 光洋 （国土交通省中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官）  
山本 聖 （【代理出席】三重県地域連携・交通部交通政策課係長）  
中村 岳彦 （名張市副市長）  
伊集院 時仁 （名張市都市整備部部長）  
野口 泰弘 （名張市地域環境部部長）

### （2）オブザーバー

小倉 宏基 （三重交通株式会社伊賀営業所総務係長兼営業係長）

### （3）事務局

都市整備部 都市計画室 3名

会議の公開・非公開：公開

傍聴人：なし

## 1 開会

### 2 会長あいさつ

○委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、また年末で忙しい中、ご参加いただきありがとうございますございました。

○人口減少の状況を踏まえ、名張市新時代の大改革を宣言、行革プランを基に取り組んでいる。人口は8万5千人をピークに2050年には5万人になると見込んでいる。

○財政状況の要因は、人口急増時代におけるの公共施設整備等の投資が響いている。

○ただ、これまでのコンパクトシティの取組は後年に効果をもたらす、それに欠かすことのできない公共交通について、皆さんの英知を振り絞って、議論したい。

### 3 議 事

＜協議案件1＞ 令和6年度上期の取組と今後の取組について

- ・名張市地域公共交通会議の事業取組報告について【資料1-1】
- ・ナッキー号乗り込み調査結果について【資料1-2】
- ・ナッキー号妊婦・子ども・子育て応援キャンペーンの実施状況について【資料1-3】

#### 【事務局が資料に基づき説明】

委員：乗っている人の満足度は一定高くなると思う。乗りたくても不便だから乗らないなど、乗っていない人の声を拾うことはしないのか。

⇒計画策定時にアンケート取った。次期計画時にも声拾いたい。

委員：乗り込み調査について、非常に優位な数字だと思う。乗り継ぎの割合をみる中で、住まいと乗り継ぎの関係性について、分析はしているか。

⇒乗り継ぎ調査からも分かるように桔梗駅周辺（沿線）のバス停の利用割合も多い。近くの人しか乗れていないように分析していきたい。

委員：満足度、利用者の満足度は取っていないのか。

⇒取っていない。

委員：乗り込み調査について、利用目的について、通院・買い物はもちろん多いが、趣味や帰宅などの割合も一定ある。これを見ると、生活の必須だけでなく、お出かけ目的でも使われている。きめ細やかな結果になっている。結果の周知について、広く一般の方に見てもらいたいと思う。

⇒分析とともに公表等取り組んでいきたい。

委員：県の補助金も活用いただきながら、積極的に取り組んでくれているパークアンドライドも含め施策の評価について、またお願いしたい。

委員：免許返納優遇措置の取組について、澤田委員の意見にもあったように今乗っていない方についてのアプローチについて、現時点で考えているものはあるか。

⇒以前の事業推進部会でも意見があったようにしたい。

委員：車がなくても生活ができるという実体験をいかに細やかに作るかということが大切。

委員：乗らない人へのアンケート、非常に大事。名張市はイベントをたくさんしている。イベントの合間にアンケートに答えてもらうなど。先日、亀山市でリニアのイベントがあり、アンケートも実施していた。そうしたイベントを利用した乗らない層の声を聞く機会の創出が良いのでは。

また、観光とのタイアップについて、観光客が増え、その方が公共交通を利用すれば、バスも維持できる。リニューアルしたナッキー号について、実物を見たらとても素敵だった。

#### <協議案件2> 令和6年度上半期コミュニティバスの利用状況について 【資料2】

##### 【事務局が資料に基づき説明】

委員：南西原の懇親会で、はたっこ号の乗り継ぎについて、時刻表変更に伴い利便性が悪くなったという声を聞く。前回の会議でも申し上げたと思うが。

⇒意見として伺っておく。

座長：各線コロナを経て、回復していない地域がある。全国的にも同じようにコロナ前には戻っていない。生活様式や働き方が変わってきている。

#### <協議案件3> 地域コミュニティ交通の再編に向けた取組について 【資料3-1、資料3-2】

##### 【事務局が資料に基づき説明】

委員：あららぎ号について、自家用有償運送を大事にしていくべき。福祉有償や他の団体など担い手を探すのを期待。全体のデマンド化は反対。自家用有償運送をベースにして、タクシーとの協働がおすすめ。タクシーの駐車場を遠隔で設けることも可能。つつじが丘に置くことも可能ではないか。

⇒つつじはドライバーの担い手も課題であるとともに、地域づくりの担い手も課題。

座長：アンケートについては、詳細分析を進めている。利用している人の数が少なく分析に耐えられるかは微妙。

委員：自家用車の活用についても濃淡がある。チョイソコのようなシステムを入れて、便利なデマンドを入れる方法もあるし、予約についてもタクシー会社と連携して事業者協力型で進めるやり方もある。どこのサービスを手厚くしたいのかを整理していく必要がある。国交省でも交通空白本部が立ち上がり、解消に向けた支援も用意される予定。官民、交通事業者同士、他分野の共創についての支援メニューが用意される予定。まだ補正予算が成立していないので、確定したものはないが、昨年度は R6.2 に要綱が出ているので、年明けには分かるのではないかと。

⇒既存資源の活用について、検討していきたい。

#### 4 報告

＜報告案件 1＞ 名張市地域公共交通会議道路運送法の開催報告について 【報告資料 1】

【事務局が資料に基づき説明】

質疑なし

#### 5 その他

- ・地域間幹線系統の運行状況について（三重県）

事務局：福祉バスの廃止について

- ・老人福祉センターふれあいの移動手段である福祉バスの R7. 4. 1～廃止。

#### 6 閉会

会長：限られた資源の中で、公共交通維持していくかについては、本日委員の方からも発言のあったとおり、関係の方と議論が重要ということ。乗り込みアンケートについては、集計・クロス分析が必要。限られた経営資源について、様々な施策とのコラボ、子育て、福祉、観光との連携などが挙げられる。赤目滝のパークアンドライドについても検証をしていく必要がある。

委員から、バス生活の実感をしてもらうことが大切という意見があった。

今日はありがとうございました。